

未来を知るリーダー（使徒1:8）

序論

▶世界の大人たちが幼いレムナントについていくしかありませんでした。リーダーとは、未来を知るものであったからです。だから、ついていくしかありませんでした。

1) 戦わずリーダー

▶レムナントの皆さんが、必ず記憶しなければならない部分があります。それは、戦わずにリーダーになったということです。これがレムナントです。戦う必要がありません。なぜなら、ヨセフについていくしかなかったということです。

▶ヨセフによってポティファルの家が祝福されたので、他の先輩方が言うことがありませんでした。なぜなら、自分たちの利益になるからです。皆さんは心配しなくて結構です。なぜなら、悪い者は、自分に利益になることであるならば何でも好みます。そこで、ヨセフは、王の前に行っても答えを提示しました。王は告白しました。私はあなたよりましなものはな一つない。なにも戦っていません。戦っていないのにリーダーになっていきました。どうしてでしょうか。未来を知っていたからです。

▶皆さんがご存知のように、大人の間違いによって捕虜になってしまいました。ダニエルと3人の友人たちは、そこに行ってもリーダーとなりました。全く戦う必要がないのは、答えを持っているからです。未来を知るなら戦う必要がありません。

▶私たちは、知らず知らずサタンから与えられた教育を受けました。例えば、戦いに勝つための君主論です。孫子兵法、韓非子の理論など、このようなものを私たちは学んできました。というのは、戦わなければならないと理解してきたわけです。それがすべて未信者の理論です。ヨセフが答えを持って与えるなら、戦う理由がありません。

2) 道 – 道があります。この道をよく見ていかなければなりません。よく一度見ていただきたいと思います。

<未信者>

ヨハネ 8:44、出エジプト 20:3-5、使徒 16:16-18、マタイ 11:28、マルコ 5:1-10、使徒 8:4-8、ルカ 16:19-31
マタイ 27:25。

<レムナント（神の子ども）>

ヨハネ 14:16-17、ヨハネ 14:26、ヨハネ 16:13、I ヨハネ 2:20、使徒 1:8、使徒 13:1-4、使徒 16:6-10、使徒 19:1-7

▶未信者状態 6つ

未信者もこの世にはたくさんいます。その中で皆さんはレムナントです。レムナントは神様の子どもです。

(1) ヨハネ 8:44

▶まず未信者は悩み事がたくさんあります。悩みます。なぜなら、ヨハネ 8:44、本人たちは分かりません。本人が悪魔の子どもだということを知ったなら大変驚くでしょう。イエス様が直接話されました。悪魔の子だと言いました。だから、本人は知らず知らず何かに引っ張られて生きていくのです。

(2) 出エジプト 20:3-5、使徒 16:16-18

▶問題が生じたら、本人も知らないうちに偶像崇拝をします。当然でしょう。悪魔の子どもですから、そうするしかありません。使徒 16:16-18 を見ますと、悪霊にとりつかれた人のところに行って、自分の運命を相談します。悪霊にとりつかれていますから、なにかをぴったり当てるものの、完全にサタンのように人をだまします。

(3) マタイ 11:28、マルコ 5:1-10

▶こうなっている状態なので自然に成功とは関係なく、心に多くの心配と苦しみが生じます。マルコ 5:1-10 によりますと、精神的に狂ってしまいます。当然な結果です。皆さんは、思い煩う、心を騒がせる必要がありません。皆さんが未信者であるならば、当然心を騒がせて心配すべきなのですが、しかし、皆さんは神様の子どもですから、心を騒がす必要がありません。

(4) 使徒 8:4-8

▶そこで誰もが引っかかることですが、肉体的な病気が霊的問題と一緒についてくるわけです。

(5) ルカ 16:19-31

- ▶その背景は地獄です。悪魔の子どもですから背景が地獄、生きることも地獄です。皆さんは神の子どもですから、お父さんも理解し、お母さんも理解し、おかしい家族がいても理解し、悪い人がいても理解し、間違っていることが見えても理解し、また、間違った道も道です。間違っている道だからこそ正しい道が見えるわけです。皆さんが進む道は、地獄の道ではなく神の国を来たらすようにしてください。
- ▶この未信者の状態は、生きること自体が地獄です。芸能人が自殺する理由、分かりますか。実際は、地獄のような人生であるからです。そうして地獄に行くのです。

(6) マタイ 27:25

- ▶こうしてマタイの福音書を見ますと、完全に次の世代に同じように受け継がれてしまいます。これが未信者です。

▶レムナント（神の子ども）の祝福6つ

(1) ヨハネ 14:16-17

- ▶イエス様は言われました。あなたがたは心を騒がせてはならない。わたしはまた助け主聖霊をあなたがたに与えます。この助け主というのには、意味があります。つまり、助ける、保護するという意味があります。そして、恵みを注ぐという意味があります。そして、教えるという意味があります。この助け主という言葉の中には3つの意味があって、私たちを保護し守り恵みを注ぎ、そして、私たちをこのように悟らせてくださるということです。

- ▶結局、世の中の人々は知らないでいます。聖霊か、悪霊かです。これから世界を動かすのは、瞑想の力なのか、黙想の力なのか、二つのうちの一つです。これからの時代は、誰が動かすのか。悪霊に満たされた人なのか、聖霊に満たされた人なのかということです。皆さんがこれから本格的に社会に出て働くときには、本当におかしい時代が来ると思います。放送局もほとんど力を失うときが来るのではないかと思うほどおかしな時代が来ます。情報も間違った情報、誤った情報がたくさん飛び交うようになります。また、今後、個人が放送局を作って、個人によるいろいろな陰謀の放送が流れると思います。いまのような大手の放送はいらなくなるかもしれません。まもなくそういう時代が来ます。また、最近、ビットコインなどが出てくるようになったのも、銀行が必要ないということでしょう。これから病院もいらなくなるかもしれません。このような時代が来るのです。だから、霊的問題が来るしかありません。

(2) ヨハネ 14:26

- ▶だから、イエス様は言われました。あなたがたは心を騒がせてはならないと言って、聖霊がすべてのことを私たちに教えられるということです。

(3) ヨハネ 16:13

- ▶ヨハネ 16:13、そして、わたしがあなたがたにお願いしたことすべてのことをあなたがたが思い起こせるようになるということです。

(4) I ヨハネ 2:20

- ▶I ヨハネ 2:20、そして、あなたがたが学んでもいないことを、神は教えてくださるということです。必ず記憶しなければなりません。

(5) 使徒 1:8

- ▶それで、イエス様が直接語られました。しかし、聖霊があなたがたに臨まれるとき、あなたがたは力を受け、そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および、地の果てにまで証人となりますと言われました。

(6) 使徒 13:1-4、使徒 16:6-10、使徒 19:1-7

- ▶そして、皆さんが行く所々、現場で、聖霊の導きを受けると、人も場所もすべてのことを導かれるということです。使徒 16:6-10 を見ますと、道を迷ったかのように、道が遮られたかのように見えるけれども、これが道であったということです。これが聖霊の導きでした。そして、使徒 19:1-7 を見ますと、ローマを征服できるように、神様は聖霊の力を注いでくださったということです。これがリーダーです。これが神のものです。

- ▶心を騒がせる必要がまったくありません。皆さんがいま疑問に思っ、私はたぶん地獄に行くかもしれないと思うのでしたら、昼夜を問わず悩んでください。いつも悩みなさい。絶えず悩みなさい。すべてにおいて悩みなさい。なぜなら、地獄に行くからです。そうだと思いますか。また、背景が地獄ですから。でも、皆さんは、そういう身分ではありません。騙されてはいけません。これらはすべて目に見えないものです。目に見えるなら偽りです。目に見えるものは詐欺師や泥棒が盗み、政治家が持っていくこともできてしまいます。目に見えないのが正常です。目に見えるものはすべて偶像です。神ではありません。皆さんが手を怪我したならば治せばいいのですが、たましいが怪我をしてしまいますと大

変です。そのたましいを完全にとらえてしまうのが悪霊です。

▶そういうことを知らない牧師方が、なぜ柳光洙牧師はいつもサタンの話をするのかと言いますが、かわいそうな牧師だと思います。あなたがたの父、悪魔だということをお話ししてあげたいです。本当にかわいそうな牧師がたくさんいます。私たちは異端になりたくありませんが、私たちを異端にしようと昼も夜も絶えず企んでいます。本当の異端を止めるべきなのに、異端を研究する人たちは、私たちに異端になってくださいとお願いしているようなものと同じです。私がレムナントの皆さんのことを思って我慢していますが、そうでなければ私もなにか一発やっていたかもしれません。私は昔の専攻が戦うことだったので。その次の趣味が悪口でしたから…。イエス様も耐えようと我慢しているときもありました。私と一緒にこの運動をしているチョ・ウンテク牧師は幼馴染なのですが、私のことをよく知っています。私がいつも戦って、彼がいつも私を止めていました。

3) 祈り・契約の旅程

▶祈りをどのようにしますか。たくさん聞く言葉です。祈りは、契約の旅程だと思ってください。

(1) 考え(心) →使徒 1:1、3、8

▶祈りについて一番重要な部分はなにか。どこに行き祈るかではありません。考えです。あなたがたの心と意思を守ると言われました。祈りの中で最高の祈りの始まりが考えです。

▶いま、人々は未信者の状態で死んでいきます。未信者のどの段階にいるかということ把握して、1:1、キリストが答えにならなければなりません。これは全部考えです。皆さんが行く所では、暗やみの勢力が離れていきます。なぜなら、皆さんは、光であり、塩であると言われました。光が行くところには暗やみが去っていきます。塩をまくところには腐敗を防ぐことができます。皆さんの身分です。これらの祝福を見つけることが祈りです。1:3、神の国です。それらを考え探ることが祈りです。エジプトに奴隷の身分で行ったわけではありません。エジプトの福音化のために行ったのです。ヨセフが告白しました。最後にそう告白しました。それらを皆さんも現場で見つけることを祈りと言います。神の国です。そうすると、1:8、聖霊の力が臨まれます。これが祈りです。

(2) メッセージ

▶皆さん、集会が終わったら 10 分でも構いません。メッセージを聞いてください。最近、携帯電話が良いわけですから、講壇のメッセージ、現場のメッセージ、本部のメッセージを聞いてください。これを継続していれば十分です。これを継続していきますと、ある日、誰が見てもこれは神様の御働きだということが見えるようになります。その答えは早く来ても遅く来ても構いません。ある日、来ます。ある日、あなたは世界福音化をこうしなさいと、ヨセフに与えられました。ある日、ダビデが羊を飼っていたときに、獅子と熊にも勝ったけれども、ある日、答えを受けるようになります。あなたは王になる。ある日、このように答えが来ます。

(3) 24 時、25 時、永遠

▶その時から 24 時に入るようになります。例えば、ハンマーで皆さんの指を打ってみてください。すごく痛くありませんか。おそらくその痛みがあるときはずっと気にするでしょう。治るまで 24 時そこに集中しているはず。反対に答えが本当に来るならば 24 時になります。本当にそうです。ですから、特別な祈りは必要ありません。24 時です。ヨセフは刑務所の中に入っても、奴隷になっても、また、総理になっても 24 時が継続されました。すると、誰が見ても神様は生きておられることを知るしかありません。それを 25 時と言います。皆さんが人を生かすこと、つまり、相手が救われていくわけですから、その救いを受けさせる祝福は永遠です。これが祈りです。

(4) 礼拝

▶こうなると、皆さんに驚くべき答えが出てきます。どこから出てくるのでしょうか。礼拝をささげるたびに答えられます。いまの段階がずっと流れているので、この祈りの旅程がベースに敷かれているので、この流れで教会に行きますと、礼拝にとっても集中するようになります。集中の時刻表が出てきます。この流れがありませんと、ただ教会に行くだけになってしまいます。いくら聞いてもあまりメッセージが入って来ません。自分のものになりません。祝福はこれで留まりません。

(5) ローマ 16:25-27

▶とうとうこれが見えるようになります。世々に渡って隠されていたものが、そして、末永く栄えることがいま現されていくということです。それは、いま私はその旅程の中を進んでいるということになります。

▶これらがずっと継続されていくとどうなるのか。

▶本論・サミット状態=聖霊の満たし

こちらがずっと継続されていきますと、この部分に対するサミット状態になります。皆さんが、わざわざ探さなくても、この祝福を味わっているならばサミット状態になっています。総理になろうともがいていたわけではないのに、いつのまにか総理になっていました。この状態を指して、聖霊の満たしと言います。

▶神様は、皆さんに聖霊の満たしを与えてくださいます。ここで考えていただきたいことがあるのですが、聖霊に満たされるとどうなるのでしょうか。ある人は、それを体験によって味わうことができると言います。でも、私は体験というものはありません。体験はないかもしれません。なくてもいいのです。必ずしも体験したからこそ聖霊の満たしと言われたら違います。なぜなら、聖霊というのは肉ではなく、霊であるからです。その聖霊の満たしが私の体に臨まれると体で感じる体験になる。けれども、その聖霊が心に臨まれるときがあります。また、この聖霊の満たしが、私の霊的な状態に臨まれるときがある。だから、あえて言うならば、私の霊的な状態に臨まれた方が良いでしょう。ある教団では、必ず体験すべきだとか、必ず異言を語らなければならないと強いて言いますが、本当に間違っている話をしています。肉で体験したり異言を語ったりという場合もありますが、そうではないときもあります。別の形で臨まれるときもあります。それは神の御心です。神よっての働きです。

▶皆さんが聖霊に満たされて、その聖霊の満たしのサミットになることが神の御心です。もちろん誰かが聖霊の満たしを体で体験しぶるぶる震えた、そんなこともあります。私は、恐らくそういう人は、なにかてんかんの状態が少しあるのではと思います。また、聖霊に満たされたらお腹がすごく動いたというのは、大腸に問題があるのかもしれませんが。そういうことが良いとか悪いとかという問題ではないと思います。私は全く感覚がないという方もいるかもしれません。

▶聖霊の満たしというのは、神様が約束されたことです。あなたを霊的サミットにすると言われました。そこには、理由5つあります。それは聖書に記されています。これは皆さんに今後来る答えですから覚えてください。

1.でたらめな教会の更新

▶でたらめな教会を更新させなさい。

1) 使徒 2:1-47、マルコの屋上の間。

2) 使徒 11:19-30、アンテオケ教会。

3) ローマ 16 章 - ローマ 16 章、ローマの福音化、世界福音化の証人です。

▶これが教会です。これを回復させなさい。皆さんが、序論のようになれば、簡単に回復させることができます。いろいろと大人の方々は、たくさんの方々の見えてくる部分があつてつぶやくかもしれませんが、90%が無駄話です。そこに試みにあわず、皆さんが教会を生かす主役になってください。ダビデのように、サムエルのように。普通の人と話しているのを見ると、話しの90%は無駄話です。もっと正確に言うと、99.9%が無駄話だということです。全能なる神様は、0.1%も無駄話をせずに働かれます。

2.霊的な力のない成功者を生かしなさい

▶なぜ、皆さんにこの聖霊の満たしが与えられ、霊的サミット状態を神様がくださったのでしょうか。それが第2の理由です。霊的な力が全くない政治家、指導者、経済人、科学者、成功者がいます。これらの人々を生かすために、神様は霊的な力でサミットをくださるのです。他の力ではなく、ただイエスだとおっしゃったのです。

1) 使徒 13:1-12、その町の総督が霊媒師に捕らわれて生きていました。

2) 使徒 16:16-18、その町の指導者が悪霊にとりつかれた人たちのことを聞いて生きていました。

3) 使徒 19:8-20、その町のすべての人が偶像の前で身動きもできず偶像崇拝をしながら生きていました。生かしていかなければなりません。難しくありません。皆さんが、序論の部分を知って沿っていきますと、自然と生かすことができます。

3.次世代

▶神様が皆さんに、なぜ、この祝福を与えられたのでしょうか。なぜ、次世代を生かすサミットを作れとおっしゃったのでしょうか。次世代を生かしなさいということです。

1) 使徒 17:1

2) 使徒 18:4

3) 使徒 19:8

▶使徒 17:1、使徒 18:4、使徒 19:8、普通の言葉ではありません。次世代がみな死に行く時代に、その現

場に行っているのちの福音を伝えてきました。聖霊の奥義を植えました。たくさんありますが、聖書箇所5つをピックアップしました。

4.病気

▶医者が出すことができない病気をいやしなさいということです。医者が出せる病気もありますが、治せない病気もたくさんあります。

1) 使徒 3:1-12、生まれつき足なえの男。

2) 使徒 8:4-8 を見ると、霊的問題と病に陥ってしまった人たち。皆さん、病気は誰でもありうる話ですが、霊的問題と一緒に重なってくる病気というのは深刻なものです。医者が出すことができません。人が生きていれば、どこかが悪くなるのは当たり前なのですが、霊的問題とともに病気 came してしまったというのは、非常に深刻な問題です。

5.災い

▶5 番目の理由です。王も止められない災いを止めるためです。神様が皆さんをサミットとして召され、力を与えると約束されました。いろいろな国の指導者がいるにもかかわらず、国が災いの中にいるので、第3次伝道旅行が終わったあと、パウロは言いました。

1) 使徒 19:21、ローマも見なければならぬ。そうです。

2) 使徒 23:11、すべてのユダヤ人が知っている。法廷に立ったときの言葉です。ローマに行っても伝えなければならぬということです。

3) 使徒 27:24、暴風にあったときに、ローマに行くときに語った言葉です。恐れるな。パウロよ。あなたはカイザルの前に立たなければならぬと言いました。

▶それで皆さんを霊的サミットに作られました。どのように受ければいいのでしょうかと、そのように受けるのではなく、神様が約束されたことです。祈りの課題の中で一番大きな課題は、聖霊の満ちしです。イエス様がこの世に残した最後の祈りの課題です。ヨハネは水でバプテスマを受けたと言われますが、しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受け、エルサレム、ユダヤ、サマリヤ、地の果てにまで証人となります。

結論 - 集中

▶結論です。皆さんが、実際的にこの祝福をどのように味わうことができるのでしょうか。それは集中です。集中できるものを見つけてください。誰もがみつけることができます。

▶これは自分なりにあっていいと思うのですが、ダビデの場合は、賛美とみことばを記録することで祈りに集中しました。パウロもそうでした。歴史を研究してみるとルターもそうでした。また、ある人は、音楽を専攻して音楽をもって深い祈りの中に入ることができます。皆さんが、もし文学を専攻されている方は、文学をやりながら深く 24 時集中していけばいいと思います。すると、驚くべきことが起こると思います。それが集中です。自分の集中ポイントがなければならぬということです。自分なりの方法で良いと思います。私の場合は、特別に何かできるものはありません。だから、呼吸に集中しました。どうせ息は吸うものですから、呼吸をもって集中しながら祈りになったのです。私はそうです。集中する方法は、人によって異なってもよいです。なぜなら、神様は、皆さんにできるようなこと、趣味だとかいろいろなものを皆さんに与えました。その集中をしながらすべての考えを祈りにつなげてください。

1) いやしサミット

▶そうすると、皆さんに重要なものが現れます。いやしサミットになります。

2) 現場サミット

▶2 番目は、皆さんを現場のサミットとして立たせてくださるでしょう。

3) 未来のサミット

▶皆さんを未来のサミットにさせていただきます。

▶メッセージが終わったあと、皆さんはいろいろなプログラムがあって、賛美もあって良いと思います。私はしなくてもよいと考えます。特別な何かがなくても、ただみことばを聞いて信じてアーメンと思うだけでも結構です。アーメンもそんなに大声で言う必要もありません。力んで言わなくても…。そんなに力んで言う理由は、信じていないからそうなるのです。普通にただアーメンとすればいいです。すべて完了しました。この契約は皆さんに成就されます。

▶これらが世界を生かすリーダーです。この夏の世界レムナント大会には2万人の方が集まる予定です。

数字がそんなに重要ですかと思うかもしれませんが、神様は、いつでも集まりの中で重要な働きをなさいます。カデシュ・バルネアで、ミツパで、マルコの屋上の中で、神様はいつでも重要な働きを始められたのです。皆さんがその働きの主役となりますように、主イエスの御名によってお祈りします。神様に栄光の拍手をささげたいと思います。拍手をしている途中でメッセージを忘れてしまわず心に刻みましょう。

(祈り)

イエス・キリストの恵み、神様の大きな愛、聖霊の御交わりとが、未来を生かすサミットに召されたすべてのリーダーの方々の上に、いまからとこしえまでいつもともにありますように。アーメン